

牛久：学校周辺に見る自然

第32号 稲敷市

2020年6月29日発行

＜ クリの花に集まる虫たち ＞

こんにちは。今回は、6月を代表する花の一つ、クリに集まる虫たちを紹介し^{しょうかい}ます。平成23年度17号も、あわせて読んで下さい。また、向台小の『向台っ子ちゃんねる』では動画もアップします。



おぼな めぼな
クリの雄花、雌花(上)とそのつくり(下)。

これらの写真は、平成23年度17号と同じ、稲敷市のクリの木です。クリはコナラやクヌギなどと同じブナ科の木で、似たような実ができますね。クリにはオスの花とメスの花がありますが、白い花穂の大部分は雄花です。雌花はどこかと探してみると、枝先に近い葉のわきから出る花穂のもとについていました。まだ、あのトゲトゲは発達していません。緑色の若い^ついがに包まれていて

一つの花に見えますが、この中に3つの雌花が入っています。それぞれの雌花から針のような花柱が9本くらいずつ束になって出ています。ですから、秋に熟して^{めぼな}いがが割れると、ふつう3個の果実が出てきますね。種子ができるには雄しべの花粉が雌しべの柱頭につく(受粉する)必要があることは、5年生で勉強しますが、花粉の運ばれ方は植物の種類によってそれぞれです。クリの場合はどうでしょう？花が咲くと独特の臭いが漂いますが、その臭いにつられていろいろな虫たちが集まり、花粉や蜜をもらいながら花粉を運んでくれます。では、この日、花に訪れていた虫たちを紹介しましょう。



クリの花粉や蜜をなめるハエの一種(左)とキンバエ(中)、ツマグロキンバエ(右)。



クリの花粉や蜜をなめるアシブトハナアブ(左)とナミハナアブ(中)、ヨコジマオオハリバエ(右)。



あまりいい匂いとはいえず、ハエのなかまが中心かと思いますが、ハチやチョウなど、短時間でもたくさんの種類の虫が見られました。花や葉に来る虫をねらってか、スズメバチやアシナガバチ、クモなども見られましたよ。みんなそれぞれ、生きるのに必死です。

クリの蜜を吸っていたハバチの一種。



イネ科の草によくいるのですが、ホソハリカメムシが雄花にいました。細長い体の、クモヘリカメムシもいました。花穂の軸の汁を吸うのでしょうか？

クリの花にいたホソハリカメムシ(左)とクモヘリカメムシ(右)。



クリの蜜を吸うルリシジミ(左・中)とキマダラセセリ(右)。

チョウも、シジミチョウ科やタテハチョウ科を中心に、いろいろ現れましたよ。なかでも多かったのはルリシジミとウラゴマダラシジミ、ムラサキツバメ、キタテハ、キマダラセセリでした。その他、モンシロチョウ、ナミアゲハ、メスグロヒョウモン、ヒメジャノメもいました。



クリの蜜を吸うシジミチョウ科のなかま、ムラサキツバメ。はねの表は、光沢のある紫色(右)。



クリの蜜を吸う大型のシジミチョウ、ウラゴマダラシジミ。はねの表は、青い(右)。

シジミチョウ科のなかまはどれも小さめで、はねの形が貝のなかまのシジミに似ているのでその名がつけました。はねのうらはあまり目立ちませんが、表側は色ももようもそれぞれで、金属のような光沢もあって美しいものが多いです。



クリの蜜を吸うタテハチョウ科のなかま、キタテハ(左・中)と、サトキマダラヒカゲ(右)。

タテハチョウ科のなかまは、昆虫なのにあしが4本しか見えません。じつは前の2本が退化していて小さく折りたたまれているため、つかまったりはできませんが、味を感じることができるそうです。

その他、おなじみのハナムグリのなかまや、林にすむゴキブリまでいました。【理科支援員：宮内】



クリの蜜や花粉をなめるコアオハナムグリ(左)とシロテンハナムグリ(中)、モリチャバネゴキブリ(右)。